

# 地域アクションプラン進捗管理シート 総括表

(第1四半期)

～仁淀川地域抜粋～

## 目次

<安芸地域>	.....	P1
<物部川地域>	.....	P9
<高知市地域>	.....	P17
<嶺北地域>	.....	P27
<仁淀川地域>	.....	P35
<高幡地域>	.....	P45
<幡多地域>	.....	P55

【地域アクションプランの取り組み状況と成果】

<仁淀川地域>

項目名及び事業概要	主な課題	インプット(投入) 〈講じた手立てが数量的に見える形で示すこと〉
<p><b>1 地域の基幹品目及び推進品目等の産地の維持・発展</b></p> <p>《土佐市、いの町》</p> <p>◆農産物価格の低迷、農業者の高齢化や担い手の減少、生産コストの増大など、厳しい環境の中で、主要品目の生産性及び品質の向上を図るとともに、安全・安心を求める消費者ニーズに対応した農産物の生産を推進する。</p>	<p>◆産地ビジョンの共有</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・集出荷体制整備</li> <li>・販売力強化</li> </ul>	<p>高知県産業振興推進総合支援事業 総合支援事業費(特別承認)の活用 5月受審、8月中旬着工、H24年1月下旬完了予定</p>
<p><b>2 加工用ワサビの加工の促進</b></p> <p>《土佐市》</p> <p>◆農産物価格の低迷、農業者の高齢化や担い手の減少、生産コストの増大など、厳しい環境の中で、加工用ワサビを加工出荷する食品加工会社の取組を支援することにより、加工用ワサビ生産農家の規模拡大や産地育成を図り、基幹品目である加工用ワサビ生産の振興につなげる。</p>	<p>◆加工原料の確保・生産振興</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・農業振興部と連携した生産の振興</li> <li>・栽培技術習得の支援</li> </ul>	<p>●4/12 第1回チーム会開催</p>
<p><b>3 土佐文旦の加工</b></p> <p>《土佐市》</p> <p>◆地域の主要品目である土佐文旦の県内市場の飽和化・贈答需要の減少による単価安へ対応するため、加工品の原料としての有効活用を図る。</p>	<p>◆文旦を利用した加工品については、様々な分野で注目されており、利用情報も多くなってきた。こうした、情報の中から、有益な情報を抽出し新たな取組みを実践していくことが必要。</p>	<p>○土佐文旦加工組合と加工業者との連携による新商品の共同開発と販路拡大の内容と、導入できる関連事業について打ち合わせ会の開催(6月14日、6月18日、6月21日) ○6次産業化に係る認定申請の作成と検討(6月14日、6月18日、6月21日)</p>
<p><b>4. 生姜の加工(生姜出荷施設整備事業)</b></p> <p>《土佐市》</p> <p>◆地域の基幹品目である生姜のフレッシュ生姜の増産を図るとともに、加工製品の生産性の向上を図り、土佐市中等の生姜生産者の所得向上を目指す。</p>	<p>◆実施内容、実施方法の検討 ◆実施結果の振り返りと今後の実施方法の検討</p>	<p>産業振興推進総合支援事業補助金 ・新工場建設予定(7月申請)</p>
<p><b>5 集落営農の推進</b></p> <p>《いの町》</p> <p>◆集落の農業者が協力して、管理が困難となった農地や高齢者等の労力などの地域資源を活用した農業経営を行い、将来にわたって地域で生活できる一定の所得と雇用の場を確保するための集落営農の仕組みづくりを行う。</p>	<p>◆協業経営について、円滑な運営が行われるように取り組むことが必要。</p>	<p>①4/12園芸協業部門会、5/5、26の定例会、6/6小ネギ現地視察研修 ②4/6、12、19上東地区営農組合役員会、4/23営農組合総会で田植え、及び耕起の作業受託の呼びかけを行ったほか、チラシ作成、配布を支援した。 ③4/6、12、19上東地区営農組合役員会の打合せを経て4/23の営農組合総会で有望品目研究部会の設立について議案化</p>
<p><b>6 新高梨の加工</b></p> <p>《いの町》</p> <p>◆生理障害等により廃棄処分されている新高梨を有効活用して新商品を開発し、販売を促進することにより、農業者の所得の向上を図る。</p>	<p>◆本年度重点的に取り組む酒造会社への加工用原料の提供について、連携内容等の具体の検討が必要。</p>	<p>○新チーム員の確定と22年度の活動実績の確認と23年度取り組み計画の検討</p>
<p><b>7. 本川キジの販路確保と新たな商品開発</b></p> <p>《いの町》</p> <p>◆いの町本川地区の特産品として、「本川キジ」の販路の拡大や新商品の開発に取り組み、中山間地域における新たな産業として定着させる。</p>	<p>◆孵卵から育成までのチェック体制の確立 ◆予冷库、ハッチャーの導入 ◆商品パンフレットの整備 ◆新規販路の開拓(関東・関西圏) ◆庭先農家の発掘 ◆採卵用成鳥舎、廃水処理施設、脱毛機の導入 ◆新商品開発(レトルト用) ◆加工製造会社との連携の検討</p>	<p>◆H23年度農商工連携事業化支援事業(高知県産業振興センター) 4/1採択決定(助成額:3,230千円)</p>
<p><b>8 給食への食材提供(安定的な出荷先の確保)</b></p> <p>《いの町》</p> <p>◆学校給食へ地元食材を提供するシステムを構築し、供給量を拡大することにより、産地消費や安全・安心な食材の提供を推進するとともに、農業者の所得の向上につなげる。</p>	<p>◆食材供給体制については、現状では、今以上の体制を組むことができないことが課題。</p>	<p>○第1回チーム会の開催</p>
<p><b>9 仁淀川流域茶のブランド化を主体とした茶の振興</b></p> <p>《仁淀川町、越知町、佐川町、日高村、いの町》</p> <p>◆良質茶の主産地である仁淀川流域の共通ブランドとして、「仁淀川流域茶」(仕上げ茶)の販売を拡大するとともに、効率的な生産体制の整備や新たな加工品の開発と販路の開拓により、茶生産農家の所得の向上を図る。</p>	<p>◆仁淀川流域茶の小売販売向上および生産体制整備に向け、特に取り組みが必要な事項 ・仁淀川流域で統一したブランド(仁淀川流域茶)の確立 ・将来ビジョンづくりにもとづく生産体制づくり ・加工品の開発</p>	<p>◆沢渡茶生産組合座談会の開催:1回(4月11日) ◆仁淀川流域茶産地振興協議会企画運営部会の開催:1回(5月24日) ◆平成22年度仁淀川流域茶産地振興協議会通常総会の開催:1回(6月1日) ◆紅茶製造勉強会の開催:1回(アドバイザー制度、7月) ◆ポップ広告作成勉強会:1回(アドバイザー制度、10月)</p>
<p><b>10 薬用作物の産地拡大による所得の向上</b></p> <p>《越知町、佐川町、日高村、仁淀川町》</p> <p>◆大手製薬会社と契約栽培を行っているミシマサイコやサンショウなどの薬用作物の産地を大手製薬会社の漢方薬の需要増に対応できるよう作付を拡大し育成することにより、所得の向上と就労の場の確保を図る。</p>	<p>◆薬用作物の産地の育成に向け、取り組みの必要な事項</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・作付面積の拡大</li> <li>・収穫量の増加しているサンショウを収穫する労力の確保が必要</li> </ul>	<p>◆薬用作物の作付面積拡大に向けた取り組み(毎年)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ミシマサイコ栽培の呼びかけと栽培者への種子配布</li> <li>・サンショウ栽培の呼びかけと栽培者への苗木配布</li> </ul>

アウトプット(結果) ＜インプット(投入)により、具体的に現れた形を示すこと＞	アウトカム(成果) ＜アウトプット(結果)等を通じて生じる プラスの変化を示すこと＞	目標(H23)
		<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ニラの販売額 2. 1億円</li> <li>◆生姜の販売額 4. 2億円</li> <li>◆土佐文旦 2. 2億円</li> </ul>
		◆加工用ワサビの加工出荷量:130t
		加工品の販売:2品目 規格外品の原料確保:80t
		生姜加工品の販売額 102,000千円
<p>①加工用ワサビの後作として2戸4aで小ネギの栽培が始まった。</p> <p>②田植作業受託は149aと前年並みであったが、新たにトラクターのレンタル実績が66aできた。</p> <p>③作業受託部門、園芸協業部門の他、新たに有望品目研究部門が設立された。</p>	<p>①協業部門のハウス高度利用について関心が高まった。</p> <p>②耕起作業の受託について今後の利用についての関心を高めることができた。</p> <p>③有望品目研究部門の設立により直販への取り組み活発化への契機となった。</p>	<p>①地域の協業の取り組み:1.9ha</p> <p>②農作業延べ受託面積 :24ha</p> <p>③新部門設立 :2部門</p>
		加工品の販売:1品目 規格外品の原料確保:7t
◆農工商連携事業化支援事業でH22商品開発した1品目をメーカーと改良虫		◆本川キジの生産羽数:4,500羽
<ul style="list-style-type: none"> <li>◆将来ビジョンの検討・作成(進捗率20%)</li> <li>◆平成23年度事業計画の作成(進捗率100%)</li> <li>◆紅茶の高品質安定化技術の習得(進捗率0%)</li> <li>◆ポップ等作成能力の向上(進捗率0%)</li> </ul>		◆仁淀川流域茶(仕上げ茶)の販売量:茶全体の15%
<ul style="list-style-type: none"> <li>◆22年度実績(仁淀川流域管内)</li> <li>・ミシマサイコ作付面積:41ha</li> <li>・サンショウ作付面積 :42ha</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ミシマサイコの作付面積:55ha</li> <li>◆サンショウの作付面積:40ha</li> </ul>

【地域アクションプランの取り組み状況と成果】

<仁淀川地域>

項目名及び事業概要	主な課題	インプット(投入) 〈講じた手立てが数量的に見える形で示すこと〉
<p><b>11 力強い高糖度トマト産地の確立</b></p> <p>◆地域の特産品の高糖度トマトに新たなブランドを加えることにより、付加価値を高め、産地間競争力を強化し、生産者の所得の向上につなげる。</p>	<p>(1)まとまりによる競争力を強化するため、産地目標達成に向けた部会活動の強化 (2)経営体質の強化に向け、個人経営目標作成と経営改善策の実践 (3)高糖度トマトの安全・安心で高品質、安定生産に向けた栽培技術の普及 (4)出荷販売体制の強化 消費者ニーズ(消費者・流通関係者)を基にした販促戦略の構築 マーケットイン販売計画の作成、出荷試行</p>	<p>・4月～6月間の月例会の開催 3回 ・産地コンセプトの開催 1回</p>
<p><b>12 地域を支える基幹品目(食用サンショウ)の振興</b></p> <p>《越知町、佐川町、日高村》</p> <p>◆中山間地域の圃場条件や気象条件を活かした基幹品目(食用サンショウ)の振興によって、農業所得の向上を図り、地域の活性化を目指す。</p>	<p>栽培技術の向上、安定的な生産の維持</p>	<p>チーム会の開催(毎月1回) ・栽培技術の検討 ・加工品の検討 ・栽培、出荷状況確認</p> <p>越知町山椒組合総会 ・食の安全安心の取り組み</p>
<p><b>13 集落営農による地域にあった農業の仕組みづくりの推進</b></p> <p>《佐川町》</p> <p>◆集落の農業者が協力して、管理が困難になった農地や高齢者等の労力などの地域資源を利用した集落営農を行い、将来にわたって地域で生活できる一定の所得と雇用の場を確保するための集落営農の仕組みづくりを行う。</p>	<p>◆新品目の導入・拡大と特色ある米づくり(集落の農業所得の向上) ◆人が集まる組織・支援のしくみづくり(共同化と農作業受委託の推進)</p>	<p>◆組織活動の支援 □チーム会 3回 □重点チーム会 4回 □組織運営に対する助言・指導(個別巡回、打合せ) 随時 □役員会 2回</p> <p>◆共同ほ場・飼料稲・飼料米の実践 □ミニマサイコ状況確認(巡回指導) 随時 □スイートコーン栽培指導(巡回指導) 随時 □飼料稲・飼料米栽培指導 6回</p>
<p><b>14 間伐の推進</b></p> <p>《仁淀川地域全域》</p> <p>◆「森の工場」を核にして、林業事業者や担い手の育成などに取り組み、間伐の推進と素材の増産を図る。</p>	<p>◆木材価格の低迷により、補助金無しでは間伐が進まない状況にある。</p>	<p>新規森の交渉予定事業者の指導 事業者への事業説明会の実施</p>
<p><b>15 (株)ソニアを核とする仁淀川流域における木材産業の振興</b></p> <p>《仁淀川地域全域》</p> <p>◆仁淀川流域における間伐の推進と素材の増産等に対応するため、(株)ソニアを核とする流域の製材工場等の経営体質の強化など、加工・流通の安定化に向けた取組を進め、木材産業の振興を図る。</p>	<p>◆ソニア自体の経営状況が悪化し存続が混迷状態であり、運営する市町村の動向を見極める必要がある ◆住宅着工戸数が100万戸から70万戸台(予測)まで激減し、木材業界全体がかなり冷え込んだ状況にあり、仁淀川流域における業界の新たな取り組みまでに至らない</p>	
<p><b>16 県産材の地域における需要拡大</b></p> <p>《仁淀川地域全域》</p> <p>◆県産材の利用推進と需要拡大のPR等を行うことにより、木材・木製品の産地消費を推進する。</p>	<p>◆公共建築の木造・木質化、公共土木工事における木材使用の2つを大きな柱としているが、それに関し以下の課題が大きい。 ・公共土木工事の減 ・市町村財政の困窮</p>	<p>・平成23年度木の香るまちづくり推進事業計画についての指導(1回)</p>
<p><b>17 シキミ・サカキの販売拡大</b></p> <p>《仁淀川町》</p> <p>◆シキミ・サカキの生産量の増加等に対応した集出荷施設の整備や、品質向上のための取組などにより、販売を拡大し、生産者の所得の向上を図る。</p>	<p>◆生産者情報が不十分 ◆生産者の高齢化・後継者対策</p>	<p>・仁淀川町内のシキミ・サカキ生産状況の把握(2回) ・効果的な取組について、関係者と協議・検討(1回)</p>
<p><b>18. うるめのブランド化</b></p> <p>《土佐市》</p> <p>◆「宇佐のうるめ」を原料にした新たな加工品の開発や鮮魚の販路の開拓により、需要の拡大を図るとともに、地域限定の名物食として提供できる体制づくりにより、観光分野への経済効果の波及を目指す。</p>	<p>○経営戦略の策定 ○「宇佐もんや」の経営</p>	<p>○ふるさと雇用(うるめと観光のまち事業)</p>
<p><b>19 「土佐和紙」の販売促進</b></p> <p>《いの町、土佐市》</p> <p>◆地域の伝統産業である「土佐和紙」は、売上げが低迷し、生産が減少していることから、手すき和紙の県内外での消費拡大を図り、原料や担い手の確保につなげる。</p>	<p>「土佐和紙」の販売促進へむけて取り組む事項 ●土佐和紙の需要拡大 ・新販売組織「i-nos.net」を活用した新商品開発及び販路の拡大 ・トリエンナーレ展を通じた土佐和紙の販路拡大 ・産地消費(手すき和紙での卒業証書づくり等) ・土佐和紙の技術伝承 ●原料である土佐楮の確保 ・いの町内における土佐楮生産実態が不明</p>	<p>○ガリ版サポーター養成講座を開催(5/24、6/7、7/7(予定)) ○トリエンナーレ審査会(5/28・29)、実行員会(5/31)を開催。予算・審査結果・今後の日程や広報活動具体的内容、激減理由の分析等について検討を行った。 ○天然素材を使った環境に優しい和紙の染める技術の習得講座を実施。(5/25 21名参加、7/13予定)</p>

アウトプット(結果) 〈インプット(投入)により、具体的に現れた形を示すこと〉	アウトカム(成果) 〈アウトプット(結果)等を通じて生じるプラスの変化を示すこと〉	目標(H23)
<ul style="list-style-type: none"> <li>・月例会の参加者 延べ28名</li> <li>・産地コンセプト参加者 16名(内女性4名)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・トマト出荷実績(～5月30日)</li> <li>完熟トマト選果重量(kg) 本年度252,975kg(前年対比102.9%)</li> <li>完熟トマト出荷実績 販売単価(税込) 859円(前年対比+30円)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆高糖度トマト販売金額 5億円</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・栽培歴の改善</li> <li>・環境保全型農業の取り組みの進歩</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ニラの販売額 3.4億円</li> <li>◆ピーマンの販売額 1.3億円</li> <li>◆食用山椒の販売額 6,200万円</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>◆組織活動の支援</li> <li><input type="checkbox"/> チーム活動により経過・現状・課題についての共有化を図ることができた。</li> <li>◆共同ほ場、飼料稲・飼料米の実践</li> <li><input type="checkbox"/> ミシマサイコについては、発芽不良により栽培を中止することになった。</li> <li><input type="checkbox"/> スイートコーンについては、7月の収穫に向け作業の確認をすることができた。</li> <li><input type="checkbox"/> 飼料稲・飼料米については、年間防除計画ができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆組織活動の支援</li> <li><input type="checkbox"/> 関係機関と共有化を図り計画的に活動を行うことができた。</li> <li>◆共同ほ場、飼料稲・飼料米の実践</li> <li><input type="checkbox"/> ミシマサイコについては、土作りを行う。</li> <li><input type="checkbox"/> スイートコーンについては、収穫作業等準備の確認ができた。</li> <li><input type="checkbox"/> 飼料稲・飼料米については、使用できる農薬・時期について徹底することができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆集落営農組織数 1組織 (平成21年3月14日 設立)</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>事業説明会 10事業体</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>素材生産量 7.1万m3</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成23年度木の香るまちづくり推進事業計画策定(土佐市他6件、施設の木質化等)</li> </ul>		
		<ul style="list-style-type: none"> <li>シキミ・サカキの出荷量 26t</li> </ul>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>◆うるめの水揚量 150t</li> </ul>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>土佐和紙の販売額 1.6億円</li> </ul>

【地域アクションプランの取り組み状況と成果】

<仁淀川地域>

項目名及び事業概要	主な課題	インプット(投入) ＜講じた手立てが数量的に見える形で示すこと＞
<p>20. 高岡日曜市の活性化などによる地域商業の振興</p> <p>《土佐市》</p> <p>◆土佐市の「高岡日曜日」の臨時拡大版である「あったか高岡スーパー日曜日」を開催し、高岡商店街で楽しめるスペースをつくること、サンシャイン高岡跡地にテナントミックスの「にぎわいのまち」をつくることによって来街者の増加を図り、地域の商業の振興につなげる。</p>	<p>◆日曜日組合、県警、地元事業者等との協議</p> <p>◆実施場所、実施内容、実施方法の検討</p> <p>◆実施結果の振り返りと今後の実施方法の検討</p> <p>◆産業会館を核とした商店街活性化の検討</p>	<p>産業振興推進総合支援事業補助金(ステップアップ事業)</p> <p>・設計委託(8月頃予定)</p>
<p>21. 地域産品を活用した冷菓等の製造</p> <p>《いの町》</p> <p>◆地域産品のゆず、トマト、いちご、文旦等を活用したアイスクリーム、シャーベット、ドリンク等の生産性の向上を図るとともに、地域生産者の所得向上を目指す。</p>	<p>◆冷菓等製造施設設備の整備により生産体制が強化され、更なる販路拡大が求められるとともに顧客ニーズにあった商品づくりが必要となる。</p>	<p>第1回実行支援チーム会</p>
<p>22. (株)フードプランの地域商社化への取組</p> <p>《仁淀川町》</p> <p>◆仁淀川町において、地域の商社として「(株)フードプラン」を位置付け、一次産品を活用した商品づくりを進め、雇用の確保や農家所得の向上につなげる。</p>	<p>◆H21年度の施設改修により向上したカット野菜の処理能力をフルに活かせるように、主要商品であるカット野菜の更なる販売拡大に取組んでいくことが重要となる。また、地元の素材を活用した新たな商品の開発に取り組んで行くことも今後は必要となってくる。</p>	<p>◆販路拡大への取り組み</p>
<p>23. 売れる商品づくりによる地産外商の推進</p> <p>《佐川町》</p> <p>◆佐川町において、地元民間企業の商品の販売の促進や、一次産品を使った特徴のある商品づくりにより、地産外商を推進し、外貨の獲得を目指す。</p>	<p>◆売れる商品づくりでの課題</p> <p>・地元産品(一次産品)を新たな商品とする、1.5倍化する加工方法、加工品等への外部アドバイス必要性</p> <p>◆地産外商での課題</p> <p>・アンテナショップや量販店等での販路、販促活動への取り組みの検討</p> <p>・販促、販売組織の確立</p>	<p>◆総合支援事業費補助金(一般事業 3,175千円 4/26 審査会)</p> <p>地乳加工品販促ツール作成</p> <p>・産業振興アドバイザー制度による専門家派遣(3回)の検討</p>
<p>24. 企業進出による雇用の増と地元企業の活性化</p> <p>《日高村》</p> <p>◆日高村において、既存企業の訪問(アフターケア)の充実や遊休施設等の活用などによる企業誘致の取り組みを進めるとともに、地域資源を活用した企業の取り組み等を支援することにより、地域の産業の振興につなげる。</p>	<p>◆・村内企業等の課題の把握</p> <p>◆魅力ある企業の誘致や村内企業の活性化</p>	<p>◆村内企業の訪問:6/30</p>
<p>25. 地元企業の活性化(芋菓子加工販売拡大事業)</p> <p>《日高村》</p> <p>◆高知県産のさつま芋を活用した新製品の開発などによる生産販売の拡大を推進する。</p>	<p>◆販路の拡大</p> <p>◆原材料のさつま芋の栽培確保</p>	<p>◆企業訪問の実施:6/30</p>
<p>26. 企業進出による雇用の増(ペット用木質系排泄物処理剤製造施設整備事業)</p> <p>《日高村》</p> <p>◆木質系のネコ砂製造事業に取り組む県内企業の施設整備事業を日高村に誘致し、村内での新たな雇用を創出する。また、原材料の木材チップや茶葉については仁淀川流域でほぼ全量を調達することから、雇用と併せた地元生産者への経済効果の波及を目指す。</p>	<p>◆魅力ある企業の誘致</p> <p>◆地域素材を活用した地域振興</p>	<p>◆企業訪問の実施:6/30</p>
<p>27. 体験型観光・食観光の推進</p> <p>《土佐市》</p> <p>◆土佐市において、地域資源を活用し、体験型観光と食観光を組み合わせることで滞在時間の延長を図り、宿泊を伴う滞在型観光につなげる。</p>	<p>◆体験型観光及び食観光の推進</p>	<p>○「とさあるく。」定例会(7回実施)</p> <p>○「とさあるく。」他地域へのまちあるき研修会に参加(1回、5名参加)</p>
<p>28 体験型観光メニューづくり</p> <p>29 「仁淀川」での遊覧船(屋形船)の運航</p> <p>《いの町》</p> <p>◆いの町において、地理的条件を活かした体験メニューづくりや自然を満喫できるメニューづくりなどに取り組み、体験型観光を推進する。</p> <p>◆全国的な知名度が低い「仁淀川」を総合的に売り出すため、近畿・関東地方の旅行業関係者の関心が高い、遊覧船(屋形船)の運航に向けた取組を進める。</p>	<p>●体験型観光の新たなメニュー・実行主体の確立。</p> <p>●新たな構築メニューの人材育成とPR</p> <p>●体験型観光メニューの整理</p> <p>「遊覧船」については、本川・吾北等も対象に最終的な可能性調査のうえ、適否を検討。</p>	<p>○7月から開始を予定しているソフトラフティングのインストラクターの人材育成及び安全講習に加え、魅力あるプログラムの構築のためのアドバイザー派遣講習及びデモを実施。(4/27～28、5/11～12、16～17、5/28～29、6/15～16、25～26予定)</p>

<b>アウトプット(結果)</b> <b>&lt;インプット(投入)により、具体的に現れた形を示すこと&gt;</b>	<b>アウトカム(成果)</b> <b>&lt;アウトプット(結果)等を通じて生じる プラスの変化を示すこと&gt;</b>	<b>目標(H23)</b>
		◆冷菓等の販売額 3.825億円
◆「豆腐」新商品の販売開始(サニーマート毎日屋あさくらセンター店) ◆「カット野菜」新規取引の開始(愛媛県の販売店舗)		(株)フードプランの販売額2.6億円 (H22.10~23.9)
		生乳出荷量拡大 480t 生産乳価向上 単価50%増 加工業者収入増
		◆食品加工新規部門の販売額:3.5億円 (H23.7)
		◆ペット用木質系排泄物処理剤の販売額 3,400万円
		◆公共関連宿泊施設での宿泊者数:60,000人
		公共関連施設等での宿泊者数:60,000人

【地域アクションプランの取り組み状況と成果】

<仁淀川地域>

項目名及び事業概要	主な課題	インプット(投入) 〈講じた手立てが数量的に見える形で示すこと〉
<p>30 「グリーンパークほどの」の多面的な活用</p> <p>《いの町》</p> <p>◆「グリーンパークほどの」を環境学習施設として整備し、小・中学校の環境教育の体験学習の場や、企業等の研修の場としての利用を促進することにより、体験型観光の推進を目指す。</p>	<p>◆地域住民の協力 (プログラムの実践へ向けて)</p> <p>◆教育現場との調整</p> <p>◆環境先進企業の参画</p> <p>◆継続可能な運営・財政計画</p>	<p>体験プログラム充実に向けた協議の実施</p>
<p>31 「山荘しらす」と「町道瓶ヶ森線」を活用した交流人口の拡大</p> <p>《いの町》</p> <p>◆「山荘しらす」と「町道瓶ヶ森線」の地理的な条件を活かし、アスリート等を対象にした高地トレーニングや、高地を活用した健康増進メニューの開発を行い、他の観光資源とも組み合わせることにより、体験型観光を推進する。</p>	<p>◆実施主体の決定</p> <p>・高地トレーニング、ウォーキング</p> <p>◆宿泊施設への地域食材提供の仕組みづくり、直売所や温泉への誘客</p> <p>◆フィールドへの移動方法</p> <p>◆町道瓶ヶ森線の冬場の通行</p>	<p>第1回実行支援チーム会</p>
<p>32 仁淀川流域を中心としたジオパークへの取組による交流人口の拡大</p> <p>《佐川町、越知町、仁淀川町、日高村、津野町、橋原町》</p> <p>◆横倉山から佐川町にかけての貴重な地域資源(地質)を活かし、仁淀川流域を中心に、天狗高原(四国カルスト)も組み合わせ、「世界ジオパーク」の認証に向けた取組を進め、交流人口の拡大につなげる。</p>	<p>◆世界ジオパークの認証むけた課題</p> <p>・運営組織や財政計画の整備</p> <p>・地域資源の認識と掘り起こし</p> <p>・地域の経済発展につながる資源の活用</p>	<p>◆協議会事務局の佐川町と運営協議:6/13</p>
<p>33 観光情報のコーディネイトと情報発信拠点の設置</p> <p>《仁淀川町》</p> <p>◆仁淀川町において、情報発信基地の整備や観光情報ネットワークの構築などによって、観光情報の充実を図り、滞在型観光の振興につなげる。</p>	<p>①情報発信力が弱い、センター機能がない。</p> <p>②グリーンツーリズムなどが収益に繋がらない。</p> <p>③夏季以外の季節の宿泊者数が少ない。</p> <p>④日帰りの観光が多い。</p> <p>⑤団体間の連携に難、ガイド不足。</p> <p>⑥集客数が多いイベントでも地場産品の販売にはあまり繋がっていない。</p> <p>⑦都市部から遠隔地、交通不便</p>	<p>・各団体のHP制作、ネットワーク化、情報発信力の強化</p> <p>・各団体の観光ガイドの育成(旧町村各2名計6名の育成目標)</p> <p>・観光地及び観光施設の改修やリニューアル</p> <p>・町内観光情報の整理と新たなニーズ調査</p> <p>・観光ツアーの商品化に向けた検討と同モデルツアーの実施・検証</p> <p>・観光情報コーディネイトの育成</p> <p>・お土産品及び食品メニューの検討と商品化の実現</p> <p>・観光情報発信基地の設置</p> <p>・観光団体のネットワーク化(観光協会を組織する方向)</p>
<p>34. 歴史的風致維持向上計画の推進</p> <p>《佐川町》</p> <p>◆「文教のまち」佐川町において、シンボルの建造物である民具館や歴史的建造物、観光施設を整備することにより、一体的な歴史的風致を形成し、観光資源としての充実を図る。</p>	<p>【街なみ環境整備事業】</p> <p>・協議会の活動・取組体制の設立</p> <p>・施設活用への取組体制の整備</p> <p>【佐川町歴史的風致地区施設活用計画策定】</p> <p>・新規整備に対する活用・財政計画とその効果</p> <p>・施設活用のための組織・団体づくり</p>	<p>◆関係機関との事業計画策定に係る打合せ 5/26(県・住宅課)、5/30(国・四国整備局)</p>
<p>35. 佐川町における知的体験型観光の推進</p> <p>《佐川町》</p> <p>◆佐川町の歴史街では、「学ぶ楽しみ・触れる楽しみ・交わる楽しみ・五感の楽しみ 大人の知的好奇心を刺激する「佐川学」による観光」を目指し、量より質の観光地域づくりやメニューづくりに取り組み、佐川町における知的体験型観光を推進し、交流人口の拡大につなげる。</p>	<p>【知的体験型観光活用計画策定】</p> <p>・新規整備に対する活用・財政計画とその効果</p> <p>・体験型観光実施の組織・団体づくり</p> <p>・計画予定地の取得</p>	
<p>36. 佐川町収蔵資料を活用した地域の活性化</p> <p>《佐川町》</p> <p>◆佐川町には偉人の多くの収蔵資料があり、特に植物学者として世界的に著名な牧野富太郎博士にちなんだ収蔵資料が多くある。この植物標本や植物画等の展示施設を整備し、集客の核として充実を図る。また、佐川町では平成24年には牧野博士の生誕150年にあたり、ポスト「龍馬伝」として「牧野博士」を旗頭とした地域活性化を推進する。</p>	<p>【牧野資料館活用計画】</p> <p>・改修整備に対する活用・財政計画とその効果</p> <p>・資料館運営管理体制の確立</p> <p>・改修施設の目的外使用の協議</p>	
<p>37. 越知町の総合的な観光推進と地場産品の販売促進</p> <p>《越知町》</p> <p>◆情報発信機能と物販機能を持った、「越知町観光物産館おち駅」を整備し、そこを拠点に越知町における観光振興と物産販売体制の強化を図る。 また、地域の様々な素材を組み合わせた交流・体験型観光のメニューづくりや地場産品等を活用した加工体制づくりと新商品開発に取り組み、観光及び物販による外貨の獲得につなげる。</p>	<p>「おち駅」の運営」</p> <p>【情報発信】・情報発信体制の強化</p> <p>・特に情報発信効果の高いもの更なる強化</p> <p>【物販】・損益分岐売上高から導いた目標売上高の達成</p> <p>・集荷と販売の最適化に向けた継続的な改善</p> <p>・お客様の声の把握と改善事項への対応</p> <p>・加工品の供給体制づくり</p> <p>「越知町の体験型観光」</p> <p>・来訪者が増える体験メニューの企画</p> <p>・観光企画メニューを実現できる体制づくり</p>	<p>◆おち駅スタッフ会の実施:1回</p> <p>◆関係者によるおち駅の運営協議(4/8)</p> <p>◆ラフティングインストラクター養成講座:12回</p>



<b>アウトプット(結果)</b> <b>&lt;インプット(投入)により、具体的に現れた形を示すこと&gt;</b>	<b>アウトカム(成果)</b> <b>&lt;アウトプット(結果)等を通じて生じる プラスの変化を示すこと&gt;</b>	<b>目標(H23)</b>
		◆公共関連施設等での宿泊者数(60,000人)
		◆公共関連宿泊施設での宿泊者数:60,000人
		◆公共関連宿泊施設での宿泊者数 (H23 60,000人)
・伊予鉄トラベル(愛媛)によるツアー実施:6/26		公共関連宿泊施設での宿泊者数 (H19 52,156人)
		◆公共関連施設での宿泊者数 (H23 60,000人)
		体験型施設での入込客数 5000人
		体験型施設での入込客数 5000人
◆体験型観光(カヌー・ラフティング)の開始:7月～		◆公共関連宿泊施設での宿泊者数 (H19 52,156人) → 60,000人  ◆整備後の施設での販売額:6,000万円

【地域アクションプランの取り組み状況と成果】

<仁淀川地域>

項目名及び事業概要	主な課題	インプット(投入) 〈講じた手立てが数量的に見える形で示すこと〉
<p>38. 国宝と体験型観光による人口の増と地域の活性化</p> <p>《日高村》</p> <p>◆日高村において、小村神社の国宝(大刀)の有効活用や、恵まれた自然環境を活かした体験型観光により、地域での交流人口を拡大し、地域の活性化につなげる。</p>	<p>◆交流人口拡大のための条件整備</p>	<p>◆日高村庁内プロジェクト会議の開催:1回 ◆産業振興アドバイザーの派遣申請:7/6・13・20予定</p>

アウトプット(結果) <インプット(投入)により、具体的に現れた形を示すこと>	アウトカム(成果) <アウトプット(結果)等を通じて生じる プラスの変化を示すこと>	目標(H23)
		◆公共関連宿泊施設での宿泊者数 60,000人(H19:52,156人)